

## 令和6年度「スポーツクラブ 21 ひょうご」全県連絡協議会第2回 理事会 議事録

- 1 期日・場所 令和6年9月12日(木) 14:00~15:30  
兵庫県民会館12階 1202会議室  
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3
- 2 出席者  
(代表理事7名) 中田会長 菅原副会長 柳瀬副会長 前田監事 宝住代表理事  
村上代表理事 岩田代表理事  
(理事4名) 岡崎理事 大力理事 中西監事 小石理事  
【欠席3名: 徳永理事 丹賀理事 進戸理事】  
  
(その他役員1名) 村田女性委員長  
  
(監事役員) 坂口幹事  
  
(地区事務局11名) 神戸市 壹岐 事務職員  
神戸県民センター 中野 主事  
阪神南県民センター 豊島 課長補佐  
阪神北県民局 濱田 副主任  
東播磨県民局 岡 副主任  
北播磨県民局 森本 主事  
中播磨県民センター 赤尾 課長補佐  
西播磨県民局 中山 課長補佐  
但馬県民局 押田 主事  
丹波県民局 大前 主事  
淡路県民局 大下 課長補佐  
  
(兵庫県スポーツ協会1名)  
菊岡 地域スポーツクラブ推進員  
  
(県事務局4名) 丸山 事務局長(スポーツ推進調整官)  
森鼻 事務局次長(副課長兼スポーツ環境班長)  
宮本 事務局員(競技・生涯スポーツ班長)  
榎木 事務局員(主任スポーツ振興専門員)  
中村 事務局員(主任)
- 3 開会あいさつ 中田会長
- 4 出席者紹介 資料にて
- 5 協議事項  
(1) 「スポーツクラブ 21 ひょうご」全県連絡協議会規約の一部内容変更について  
配付資料に基づき、播磨西地区の名称を中・西播磨地区に変更となることを県事務局

が説明した。

→ (1) について、承認

- (2) 令和6年度「スポーツクラブ 21 ひょうご」全県スポーツサミットについて  
配付資料に基づき、・開催要項、スポーツサミット予算案、当日のスケジュール、  
役割分担について、県事務局から説明した。

■ 役員の主な意見

【中田会長】

○ 今回の全県スポーツサミットの場所はどのあたりか。

【県事務局】

○ 県庁の西側にある。参加者に地図での案内をする。

【中田会長】

○ 予算の支出の部分で、バスの補助金がある。これは全県連絡協議会の取り決めとして、たくさんの方に参加してほしいという趣旨で決定した事項であるが、これまで個別に参加した場合も支出しているか。

【県事務局】

○ 過去に一度だけ申請されたことはある。可能な限り、乗り合わせて申請すること。その際、領収書等を提出することを確認。

【村田女性委員長】

○ 分散会の協議内容に、中学校運動部活動の地域移行についてとあるが、運動部だけか。

【県事務局】

○ スポーツクラブ 21 に文化的なクラブが少ないということで、運動部活動と記載している。

【中田会長】

○ 県の考え方も運動部だけに特定せず、クラブ活動の地域移行になっているはず。

【県事務局】

○ 国としても、運動部に限定しているわけではなく、すべての部活動の地域移行として方針を示している。県事務局としては、スポーツクラブ 21 はスポーツ系のクラブが大いなので、そういった文言にしている。文化系のクラブが存在するということがあれば、運動部という文言を削除する。

【中田会長】

○ では、本来どおり、クラブ活動の地域移行ということで議論をする。

→ (2) について、承認

- (3) 中学校部活動地域移行の捉え方について（意見交換）

【中田会長】

○ 配付資料に基づき、説明を行った。この問題について、現段階での捉え方を共有しておきたい。

【神戸地区】

○ 北神地区が NPO 法人を取得し、中学校部活動も受け入れ体制が整えつつある。

それに追従して灘区、中央区、垂水区が一般社団法人を立ち上げることを考えている。

神戸市の教育委員会の担当者が、各区で話している内容が二転三転しており、区ごとに話している内容が違う。

#### 【中田会長】

- 神戸市は令和8年度から部活動を地域へ完全に移行すると発表した。中学校側がもっと主体的に動いて欲しいと市に伝えている。我々は中学校にどんな部活動があるのかわからないため、方向性を決めてほしいと要望している。

部活動ではなく全く新しい活動として捉え、名称はコベカツとした。この2年間で内容をつめていくようである。

#### 【阪神地区】

- 猪名川町は、教育委員会が主導で行っている。体育協会の加盟団体、種目別団体に対して、部活動に地域移行、講師派遣、日程等を検討しているようである。

スポーツクラブに対しては情報提供ぐらいで、特に要望等はない。

- 川西市は一般募集により20種目ほどのクラブが立ち上がっている。文化系も吹奏楽など立ち上がっているようである。

しかし、中学の施設を利用しているため、中学校の顧問の先生が主体となって活動しているクラブはうまくいっているが、その他の団体は調整に困っているようである。

#### 【播磨東地区】

- 加古川市では、NPO法人総合型スポーツクラブが受け皿になる。しかし、問題点が多く困っている。

トライアルとして、土日に陸上競技協会の指導、新しくボートのクラブチームを立ち上げた。吹奏楽も夏休みに合同練習会を行っている。

指導者の確保が一番の問題である。教職員の兼職兼業、指導者の資格など課題は山積。

一つの案として、加古川市を4つのエリアに分け、その上でレベルに合わせて2つのクラブに分けることを検討している。

#### 【中・西播磨地区】

- 宍粟市では、7月に市の協議会が立ち上がった。保護者、スポーツクラブの代表などが参加し、少し動き出したという状況である。

地域に合ったやり方を模索しており、生徒の移動の問題などを解決しながら8年度にむけての協議を行っている。

#### 【但馬地区】

- 但馬でこの問題を解決するのは難しい。現実には学校の先生が部活の指導を担ってもらっているが、地域が受け皿になるのか疑問である。今後、但馬地区の理事会等で決めていきたい。

#### 【丹波地区】

- 丹波地区は、生徒の数が激減している。この間ようやくスポーツ協会が動き出したようである。

最近、中学校へペタンクなどニュースポーツを指導にいったが、部活動地域移行はスポーツクラブ21としては難しい。

**【淡路地区】**

- 淡路地区では、スポーツクラブにアンケートがあった程度で、情報等は入ってきていない。地域柄、やりたい種目があれば、遠い場所のクラブに入ることは慣れている。洲本地区もスポーツクラブの会員は高齢者ばかりである。指導者の資格を持った人はいない。

**【事務局】**

- これだけの議論になる運動部はまだましで、文化部は立ちゆかない状況は想像できる。この国の方針は根本的などころから考え直すべきところがあるということを市町で話をして欲しい。

**【中田会長】**

- 神戸の場合は、文化系も含めて検討している。  
これまで、学校現場は教育委員会が主導で教育活動が行われてきたが、この問題は中学校側の問題である。それぞれの中学校で対応が変わってくるはずなので、我々はそれに向かい合って対応する必要がある。

**【事務局】**

- 垂水区で聞いた内容と中央区で聞いた内容にどのような差があったのか。

**【神戸地区】**

- 中央区は8月末の段階で地域スポーツクラブは関係ないということだった。この情報が一番新しい。しかし、垂水区では7月の時点で、地域で協力できるクラブを探している状況であった。

**【中田会長】**

- 関係がないことはない。受け皿の一つとして期待はされている。すべて地域スポーツクラブが受け入れるということではなく、あくまでも一つの団体として前向きに考えて欲しいということ。
- サミットの分散会は地区別で分けるのか。

**【事務局】**

- 前回のご指摘もあったので、近い関係の人たちでグループを作る予定。

**6 報告事項**

(1) 10年プランの進行状況について

- 配付資料に基づき、事務局が説明した。
- 登録認証制度について、兵庫県スポーツ協会菊岡推進員が資料に基づいて説明した。

(2) 全県スポーツ大会の日程について

- 配付資料に基づき、事務局が説明した。

**【中田会長】**

- あじさいロードレースは11回ではなく12回に訂正をお願いしたい。
- 10年プランは全県連絡協議会が立てた計画なので、令和8年度までにはモデルクラブを各地区で出して欲しい。
- クラブを運営していく上でいろんなリスクがある。法人格を取得することで身

を守ることになる。NPO法人はハードルは高いが、一般社団法人は取得しやすい。今回のサミットはそういったことにたけた先生に依頼しているので、10年プランに沿ったクラブになるために参考になる。

## 7 その他

### (1) 地区連絡協議会の運営体制について

#### 【宝住代表理事】

○ 阪神地区はこれまでどおりの体制で運営していく。

#### 【中田会長】

○ 他の地区で分裂したいというのであれば、この場で審議する。あくまで地区の問題なので、県民局・県民センターで検討して欲しい。

### (2) 但馬地区からの要望について

#### 【村上代表理事】

○ 兵庫県は広く、京阪神地区と我々の地域では人口差も多く少子高齢化が進んでおり、クラブ活動の存続自体が危ぶまれている状況である。統合を推奨されているが、基金の問題で統合することに抵抗がある。そういった状況から、京阪神地区と同じ方向へ進むことができないということを理解した上で、今後のことを考えて欲しい。

○ 女性委員についても、お願いしすることが非常に難しい。ノルディックウォークを企画しているが、参加者も非常に少ない状況である。地域の格差が大きいということを理解して欲しい。

#### 【中田会長】

○ 10年プランは全てのクラブを同じとは考えていない。それぞれの地区、条件にあったクラブの将来をどう見据えるか、ということである。但馬地区のクラブ状況に合ったプランを模索して欲しい。

○ 女性委員会について、委員になると世話をしなければならないといった捉え方を改めて欲しい。自らが楽しむことで、周りの人たちを巻き込み、女性が楽しむ場が増えることを目的として女性委員会を発足した。決して強制している訳ではないことを理解して欲しい。

## 8 閉会あいさつ 柳瀬副会長

## 9 閉 会